

✿ 干布小学校だより

1月号 R2.1.8
天童市立干布小学校
校長 三好 義宏

温かい人間関係で まとめの3学期に

7日より、50日間の3学期を開始しました。まとめの3学期となりますが、子ども達には温かい人間関係を再確認できる学期となるよう、始業式では話したところです。年が明けて令和二年になりました。ふるさとの風土でよりよく子ども達が育ちますよう努力して参ります。(始業式での講話の抜粋です。)

30年ほど前の話になります。私が勤めていた小学校に、その卒業生である有名な作家、井上ひさしさんがいらっしゃいました。私が担任していた4年1組に、井上さんの好きな言葉を書いた色紙をいただきました。そこには、「**一度口から出た言葉は 鉄砲弾のように戻ってこない**」と書いてありました。わたしは、それからずっとこの言葉を大切にしてきました。今日は皆さんと、どんな意味なのか、考えてみます。

みなさんが、おしゃべりをしたり答えたりする言葉が、鉄砲から出る弾のようだとおっしゃっているのですから、ちょっとおそろしい話かもしれません。鉄砲とは簡単に言うと人を傷つける道具ですから、そこがヒントになります。高学年の人は、どんな意味か予想がつかますね。実は、井上さんは二つのことを教えてくれています。一つは、人を傷つける言葉は言ってはいけないということです。傷つける言葉は、相手の心を深く傷つけてしまう危険なものということです。ひどい言葉は相手の心に鉄砲弾のように突き刺さるのです。言葉が人を傷つける武器になってしまうことを教えてくれています。もう一つは、ちょっと難しい意味になります。例えば、転んだときはまた立ち上がって何事も無かったように前に進める失敗ですが、人を傷つける言葉を使ってしまったことは取り返しがつかない失敗になるという意味です。間違っていることと、間違っていないことがあるとしたら、人を傷つける言葉は、間違っていないこと、許されないことなのです。



干布小学校は、1年生から6年生まで、各学年同じクラスで生活している、家族のような学校です。家族は、一つの家にいてずうっと仲良く暮らしています。そんな家族と同じような皆さんのクラスですので、鉄砲弾を口から発射する前に、落ち着いて、言ってはいけないことだと思出ししてください。そして、家族のように温かいクラスになるように願っています。

〇1年 |さんと担任にこんなやり取りがありました〇

- ・こうちょうせんせいが「人をきずつけることはいわないで、やさしい三学きにしてください。」とってくれました。ほくは、そのことばにゆうきをもらいました。
- ☞ステキだね。1くんならできるよ。1くんにきょうあえてうれしかったよ。

一、二学期を振り返って、三学期に生かす(始業式児童代表の言葉より)

5年 工藤 理紗

私は、一、二学期にあった行事の中でも宿泊体験学習で、いろいろな成長ができたと思います。一つ目は、時間を見て行動することです。いままでは集合する時刻を守らずに、遅れてしまったり、行動が遅くなったりしていました。だけど、今は時計を見て、時間までに行動することができるようになりました。二つ目は、人の話をきちんと聞けるようになったことです。今までは、先生や発表をしている人がいるのに、さわいで話を聞いていない人がたくさんいました。でも今は、うるさくしている人に声がけをしたり、注意をしたりしたので、直そうとする人が増えてきました。三つ目は、協力することができるようになったことです。今までは、一人で行動する人がいたり、自分勝手な人がたくさんいたりしました。でも今は、だれかが一人でしたら声をかけ、意見がちがったら話し合っって合わせられるようになりました。このように、一人一人が宿泊体験学習を通して、変わることができました。

これらのことを生かして、三学期にがんばりたいことがあります。それは、最高学年の0学期として、自

分の行動に責任を持つことです。たとえば、ダンスの曲を決める場合、一年生でもおどれて男女関係なく、みんなが知っている曲を考えました。自分の好みだけで選ぶのではなく、全校生のことを考えて発言しなければと、責任の大切さを感じました。また、まちがったことをしている人には、きちんと注意ができるようになりたいです。そのためには、どのように言えば相手に伝わるのか注意し、自分の考えをきちんと話せるようになりたいです。そして、こまっている人がいれば、助けあげられるように、これまで学んだことを生かして努力をしていきたいです。



↓遅くなりましたが、2学期の終業式での、代表児童の言葉です。

二学期にがんばったこと

2年 後藤 美紗希

わたしが二学期にとくにがんばったことは三つあります。

一つ目は、書写です。まず、ずれないように紙をおさえて、しせいを正して書きました。

とくにむずかしかったところは、ひらがなの「ま」の丸を書くところでした。丸がつぶれないように気をつけて書きました。何回もお手本を見て、書きなおして、ほかの字もていねいに書くことができました。

二つ目は、じきゅう走です。休み時間にたくさんれんしゅうをつみかさねてきました。れんしゅうでは六いでしたが、本ばんは三いでした。走る時にさいしょに全力で走ると、力がなくなってしまうので、さいしょにおそく走って、その間に力をためておいて、後で力を出して走るようにしました。そうすると、前にいる人たちをぬくことができました。来年は女子で一いになれるようにがんばりたいです。

三つ目は、全校テストです。全校テストでは、今までれんしゅうしてきたせいかをつみかさねて百点をとりました。

特にさん数ではしきがあっているか見なおしをしっかりとしました。れんしゅうのときや、しゅくだいをするときは、じゅぎょうで学んだことを思いだして、もんだいやしきに赤と青でしるしをつけました。おかげで本ばんでもしきをまちがえないで書くことができました。

三学期は、今がんばっている九九のれんしゅうを続けて、今よりはやく言えるようにしたいです。



コミュニケーションの大切さ

保健主事 新田尚子

干布小学校に赴任して9か月になりました。保健室を運営していく中で、大切にしていることが「コミュニケーション」です。保健室には、ケガ・病気で来室はもちろんのこと、何気ない会話をするために来室する児童がいます。勉強の話、友達の話など、少しでも気楽にコミュニケーションが図れるように居心地の良い保健室を目指すようにしています。気楽にコミュニケーションを図ることで、自然に笑顔になり、勉強する姿に切り替え、教室に戻っていく、これが理想の姿だと感じています。

コミュニケーションとは、児童一人一人のちょっとした変化が発見できる唯一の手段だと思います。これからもコミュニケーションを大切にしながら、児童一人一人の変化に気づけるような養護教諭を目指していきたいです。



明けましておめでとうございます
今年も宜しくお願いいたします



干布小学校 教職員一同